NAR Ⅱ

取付説明書 ー本体取付ー

●このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
●正しく施工、組付けをしていただくために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。

門扉は人や車が出入りするためのものです。構造によって開閉する方法が異なりますので、設置の場所・目的に合わせて選択してください。

<開き門扉>

■施工上のご注意

●商品の施工については必ず取付説明書にしたがってください。
また、施工完了後に取付説明書を施主様にお渡しください。
●外開きタイプでは開閉時に扉が公道(道路面)等へ飛び出さない位置に設置してください。
●電装商品の場合は配線工事を有資格者の専門業者にご依頼ください。
●施工完了後は扉の開閉チェックを行ない、不具合がないか確認してください。
●寒冷地では門柱に水抜き穴をあけてください。

■使用上のご注意

製品の破損などによる身体の損傷等の危険がありますので、以下の使い方を守ってください。

●通常使用されない場合は必ず施錠してください。また、落し棒の付いている商品は落し棒も同時に降ろしてください。
●強風時の開閉は避けてください。
●開閉は必ず把手を持って行なってください。
●開閉時には手足・衣服等を挟まないよう、注意してください。
また、人・物等の障害物がない事を確認してください。
●扉に物を載せないでください。
●扉を揺すったり、乗ったり、寄りかかったりしないでください。

■梱包明細書

1 門扉本体セット

名　　称	員　数	
	片開き	両開き
門扉本体(吊元門柱付)	1	2
組付け部品(現場施工)		
丸ワッシャー(加工品)	8	16
スプリングワッシャー	8	16
ナット　M12	8	16
調整スペーサー	10	20
落し棒受けパイプ	−	2
袴カバー	2	4
袴カバー取付ビス　M4×10トラス	4	8
取付説明書(本体用)	1	1
貫抜錠(出荷時本体組付け)		
貫抜錠	1	1
貫抜錠受ホルダー	−	1
貫抜錠組付け裏板	1	2
錠取付ボルト　M6×70六角ボルト	4	8
錠取付袋ナット　M6	4	8
錠取付座金　M6用平座金	4	8
錠取付座金　M6用バネ座金	4	8
把手(出荷時本体組付け)		
把手道路側	1	2
把手建物側	1	2
把手取付ネジ　M6×50サラ小ネジ	2	4
落し棒(出荷時本体組付け)		
落し棒	1	2
落し棒つまみボルト	1	2
落し棒抜け防止ボルト	1	2
落し棒ホルダー	1	2
落し棒ホルダー取付ボルト	2	4

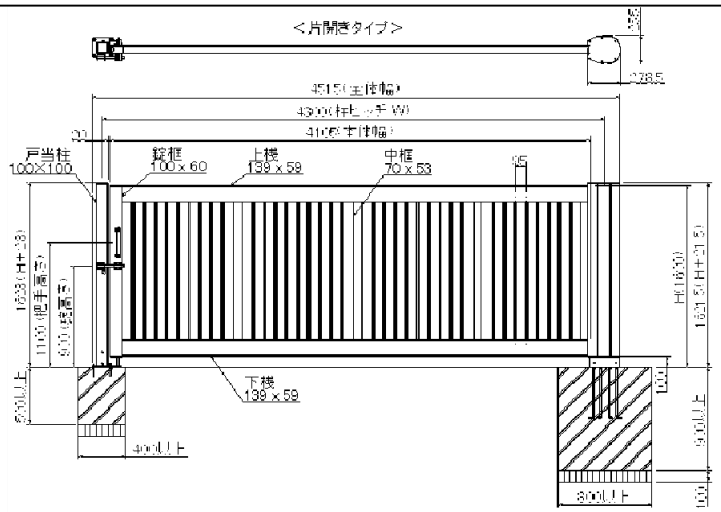
2 戸当り柱セット【片開きのみ】

名　　称	員　数
戸当り柱	1
落し棒受金具	1
オールアンカー　M12×90	4
ナット　M12	4
丸ワッシャー	4
貫抜錠受ホルダー	1
貫抜錠受ホルダー取付ボルト　M6×15	4

3 開口規制戸当り柱セット

名　　称	員　数	
	片開き	両開き
開口規制柱	1	2
落し棒受金具	1	2
オールアンカー　M12×90	4	8
ナット　M12	4	8
丸ワッシャー	4	8

1-1.姿図及び各部名称（片開き）

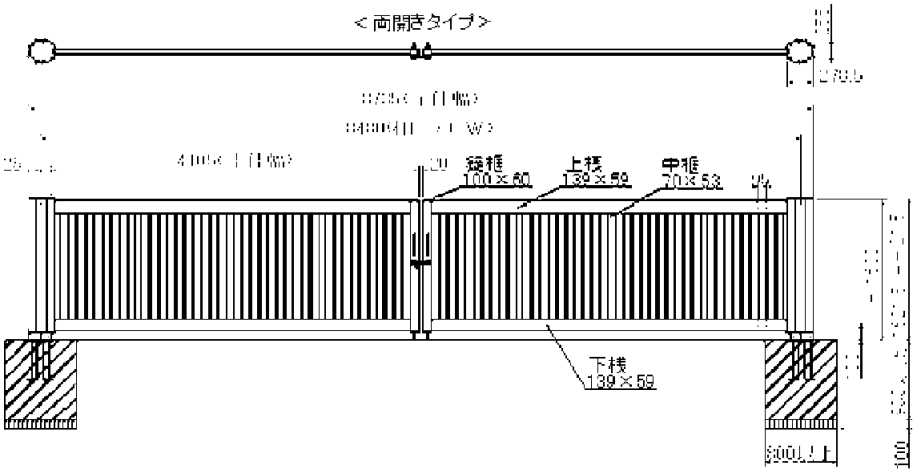


呼称	本体幅	全幅	柱ピッチ（W）	有効開口幅
20-(08)(10)(12)(14)16	2105（2100※）	2515	2300	2010
30-(08)(10)(12)(14)16	3105（3100※）	3515	3300	3010
40-(08)(10)(12)(14)16	4105（4100※）	4515	4300	4010

（※）はNRⅡ、NTRⅡの寸法

高さ（呼称）	本体高さ H	錠高さ	把手高さ
16	1600	900	1100
14	1400	900	1100
12	1200	800	1000
10	1000	600	800
08	800	600	上桟上部

1-2.姿図及び各部名称（両開き）



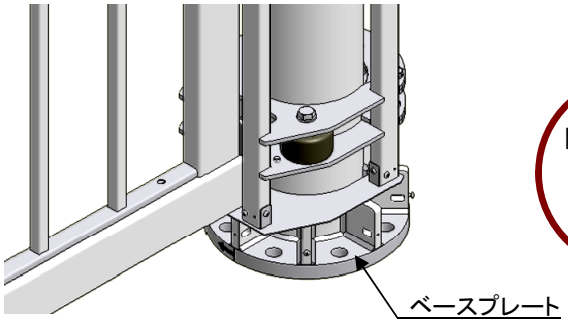
呼称	本体幅	全幅	柱ピッチ（W）	有効開口幅
20-20-(08)(10)(12)(14)16	2105（2100※）	4735	4480	4225
30-30-(08)(10)(12)(14)16	3105（3100※）	6735	6480	6225
40-40-(08)(10)(12)(14)16	4105（4100※）	8735	8480	8225

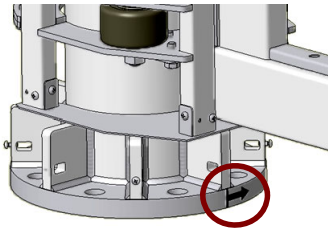
（※）はNRⅡ、NTRⅡの寸法

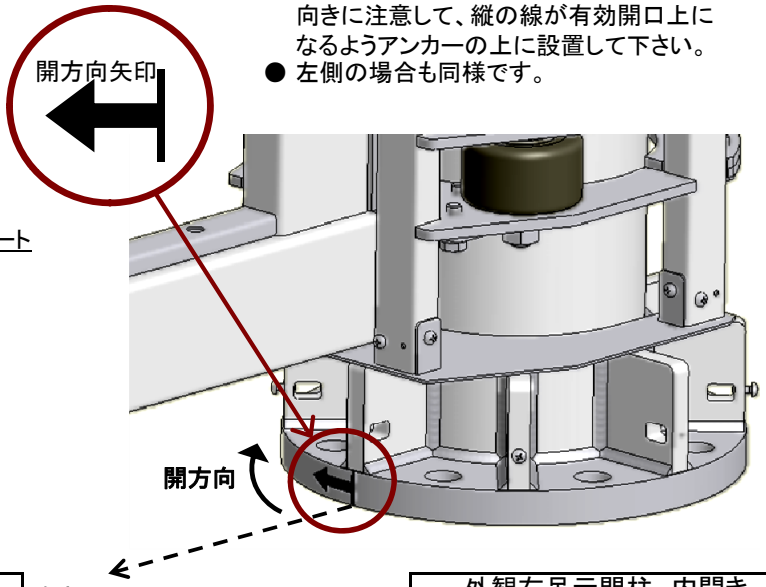
高さ（呼称）	本体高さ H	錠高さ	把手高さ
16	1600	900	1100
14	1400	900	1100
12	1200	800	1000
10	1000	600	800
08	800	600	上桟上部

2.門扉の取付けと調整

2-1 吊元門柱の取付 （門扉の開閉方向）







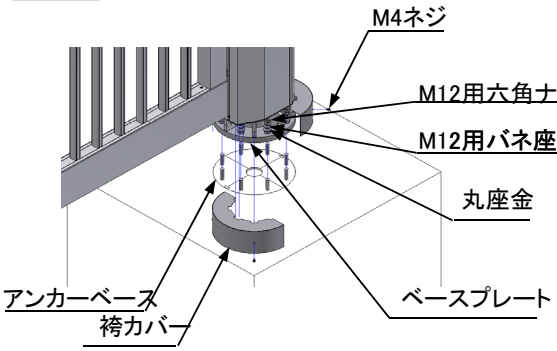
● ベースプレートに記してある開方向矢印の向きに注意して、縦の線が有効開口上になるようアンカーの上に設置して下さい。
● 左側の場合も同様です。

外観左吊元門柱　内開き

※左側も右側と同様

外観右吊元門柱　内開き

2-2 門扉の取付



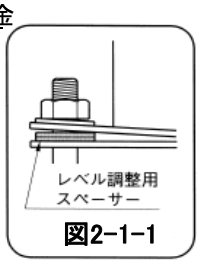


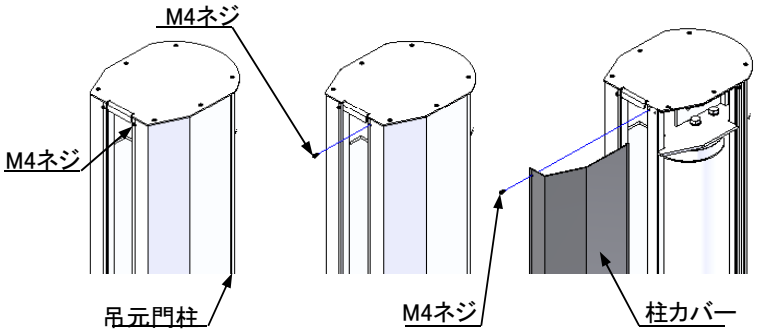
図2-1-1

① モルタルが完全に硬化したことを確認してください。
② 確認後、ベース部の矢印（ 2-1 門扉の開閉方向）に注意しながら、アンカーベース用取付ナットで固定してください。
③ 袴カバーは、「2-3 調整」が完了後に取付けてください。

＜注 意＞

● 吊元門柱内部機構により、190°まで開口する仕様になっていますので、開閉方向に注意して取付けてください。
● 開閉位置での門扉本体の水平が出ていない場合は、レベル調整用スペーサーにて調整してください。（図2-1-1参照）
また、門扉の間口調整はこのときに行ってください。

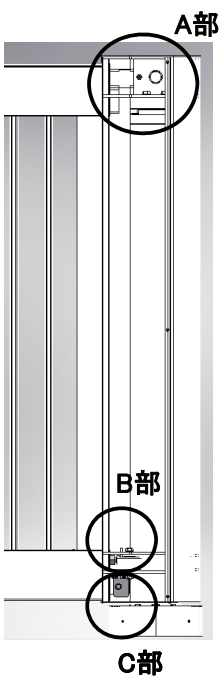
2-3 柱カバーの取りはずし



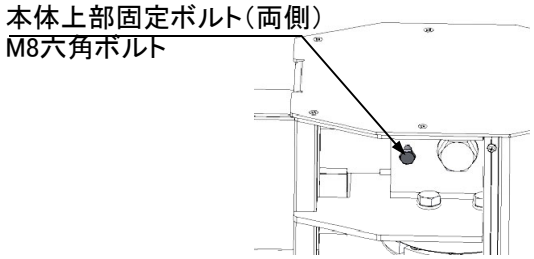
① 吊元門柱の前面にあるネジをはずし、柱カバーを前方にスライドさせるようにして取りはずしてください。
てください。
② 反対側も同様に、柱カバーを取りはずしてください。

2.門扉の取付けと調整（つづき）

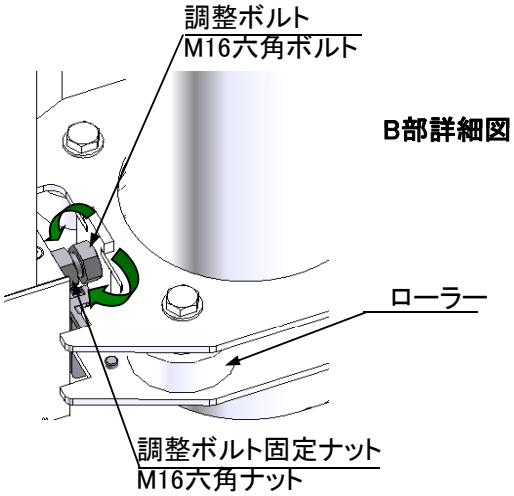
2-4 調整 ※1



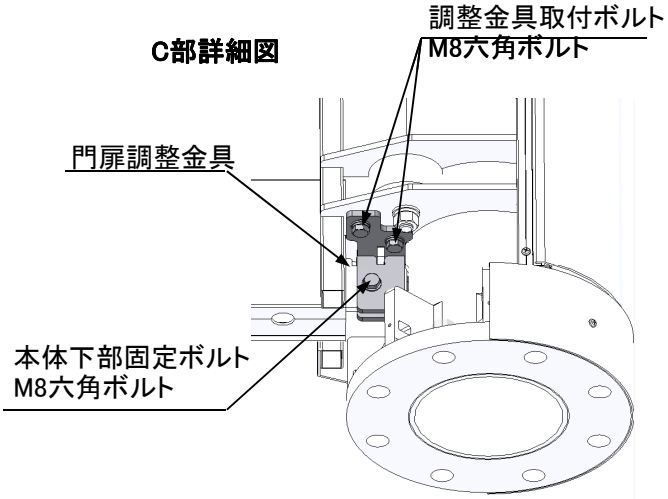
A部詳細図



B部詳細図



C部詳細図



① 吊元門柱上方の本体上部固定ボルト(M8六角ボルト)と下方の本体下部固定ボルト（M8六角ボルト）をゆるめてください。

＜注 意＞

● ボルトは、両面にありますので注意してください。

② 吊元門柱下方の調整ボルト固定ナット（M16六角ナット）をゆるめ、調整ボルト（M16六角ボルト）を出し入れしながら門扉本体が水平になるように調整してください。

③ 門扉本体の倒れを調整する場合は、ローラー下側の門扉調整金具を調整してください。調整部は長穴になっていますので調整金具取付ボルト(M8六角ボルト)をゆるめて行なってください。調整範囲が足りない場合は、**2-1門扉の取付け**のスペーサーで調整し直してください。

④ 調整が完了しましたら、調整ボルト（M16六角ボルト）と調整ボルト固定ナット（M16六角ナット）を締めて固定し、本体上部固定ボルト(M8六角ボルト)と本体下部固定ボルト(M8六角ボルト)、調整金具取付ボルト(M8六角ボルト)を締めて固定してください。

＜注 意＞

● ボルトは、両面にありますので注意してください。

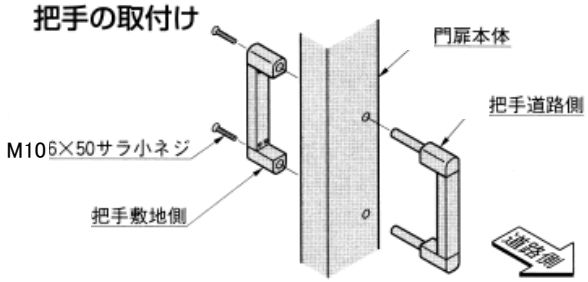
⑤「2-2柱カバーの取りはずし」の逆の手順で柱カバーを取付けてください。

⑥ 錠の納まり、落し棒の納まりなど全体の納まりを確認の上、袴カバーを取付けてください。

※1 工場出荷時に調整してあります。
必要な場合のみ実施してください。

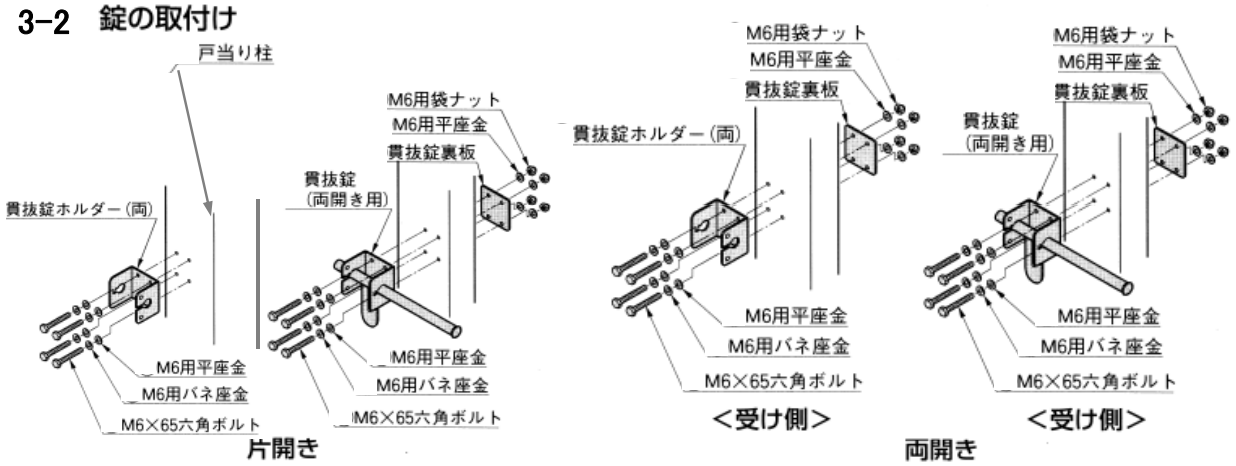
3.把手と貫抜錠の取付 （内・外交換時）

3-1 把手の取付け



❶ 左図のように門扉本体に把手を取付けてください。

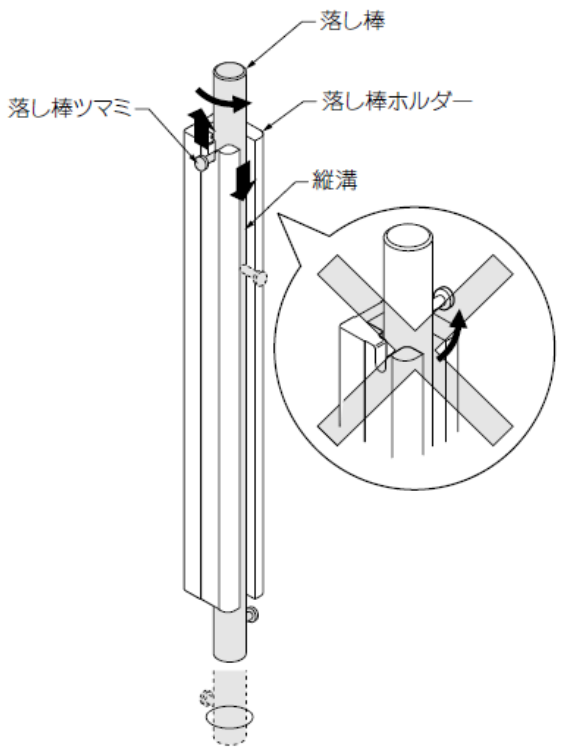
3-2 錠の取付け



❶ 上図のように門扉本体に錠を取付けてください。

※取り外す時は、袋ナットを取ってから六角ボルトを外して下さい。

4.落し棒の取付



①落し棒ツマミを縦溝の位置まで回転し、縦溝に沿って落し棒を下げます。

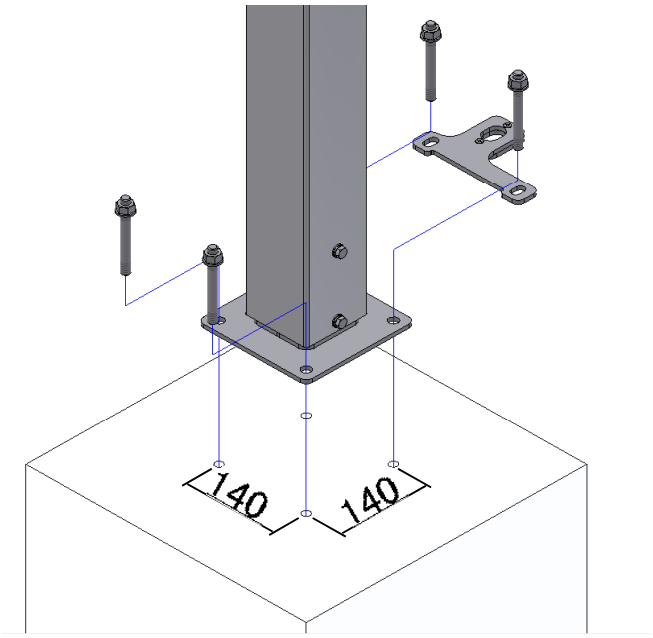
⚠注意

- 安全のため落し棒を上げておく時は、ツマミを切込み部にかけてください。

お願い

- 門扉を固定する場合は、落し棒が落し棒受けに入っていることを確認してください。

5.戸当り柱の取付【片開きのみ】



❶ 門扉本体に取付けた錠と位置を合わせ、左図のように基礎に穴をあけオールアンカーにて施工してください。

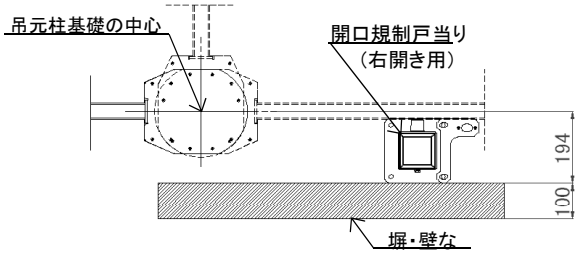
<注 意>

● 戸当り柱のレベルが合わない場合は、レベル調整用スペーサーにて調整してください。（図5-1参照）

図5-1

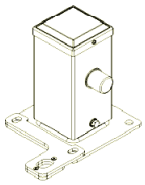
6-1.開口規制戸当り柱の取付

6-1 門扉を180°回転させる場合



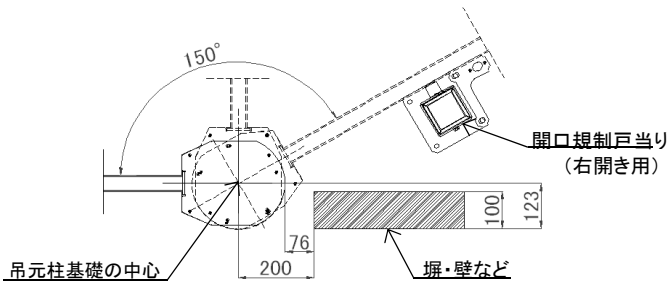
<注意>

● 吊元門柱内部機構により、190°まで開口できる仕様になっています。門扉や吊元門柱破壊の恐れがありますので、開口角度に合わせて必ず戸当りを設置して下さい。

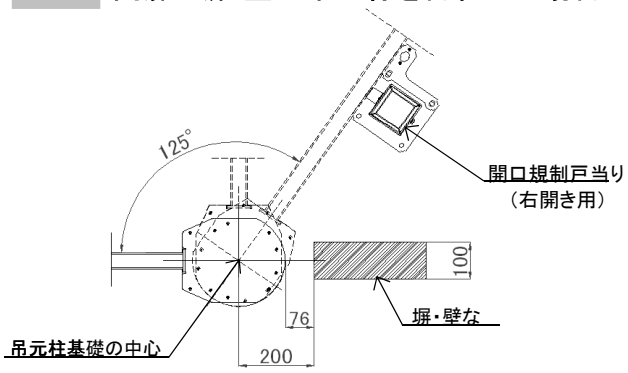


● 付属のオールアンカーを使用して開口規制戸当りを施工してください。

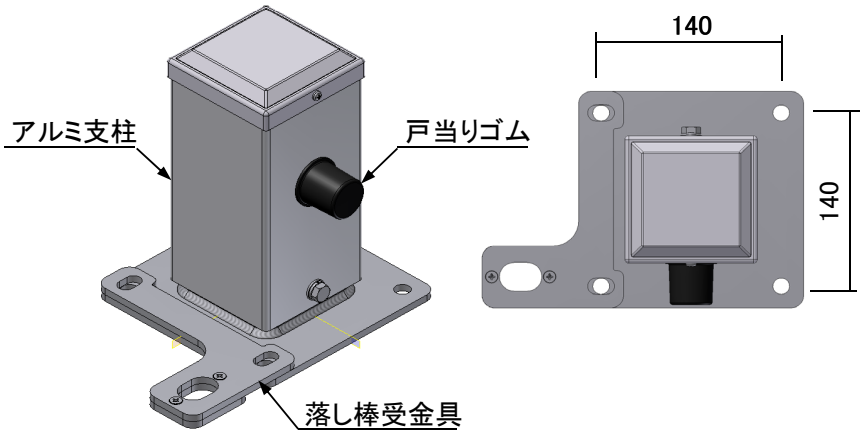
6-2 門扉が塀・壁の外側から出ない場合



6-3 門扉と塀・壁の中心線を合わせた場合

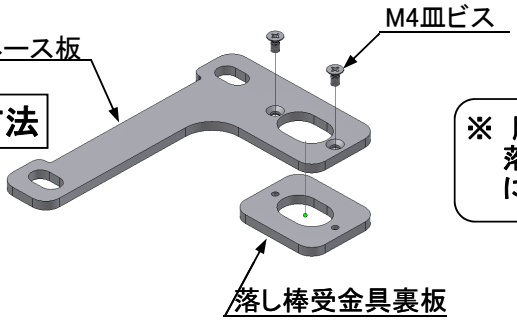


6-2.開口規制戸当り柱の取付



※ オールアンカー M12×90で固定します。
取付け位置は、門扉本体を開いた時に固定したい場所に設置してください。
本体の落し棒と落し棒受金具の位置を合わせ、アンカーを打ってください。

落し棒受金具勝手変更方法



※ 勝手を変更する場合は、落し棒受ベース板を裏側にし、組立し直してください。

工事店様へ

- 仕上げ後、本体についているモルタルを完全に拭き取ってください。硬化後拭き取りますと表面を痛めますのでご注意ください。
- みだりに改造、変更はしないでください。
- 施工終了後、取付説明書は施主様にお渡しください。

- ご使用いただきましてありがとうございました。

施主様へ

- 月に一度程度のお手入れで美しさが長く保てます。汚れの軽い場合は水にぬらした柔らかいぞうきんで拭き取ってください。
また汚れのひどい場合はうすめた中性洗剤で拭き取ったのち洗剤が残らないように拭き取ってください。

取説コード
A622

JZZ635868
201904A_1049